

紙風船夢のせている老いて今  
ペンが走り心配事がはみ出して  
一枚の紙で人生踊らされ  
浮き沈み余白を埋める再生紙  
句想練る白紙のまんま朝が来る  
成功も挫折も耐える母の紙  
五線譜に溢れる母の愛がある

星 愛子  
加藤 未貴  
橋本 葉子  
阿部 麗紅  
山村 幹雄  
白木 二十重  
竹村 鮮明

川柳 浦幌川柳会

龍の絵の威厳を放つ夏のれん  
崩れたるままの家あり月見草  
今日晴れて短い命の蟬の声  
炎昼の真つ只中をペダル踏み  
旅衣ぬぎすて先ずは夕涼み  
凶作に声をひそめる電話口  
芍薬や明日は夫と旅に出る  
八月や玉碎諸島のまいご石

大山さよ子  
越坂 順子  
徳地はつ子  
橋本 葉子  
福澤 米子  
福原 仁子  
宮部あき子  
高橋 悦子

俳句 ことぶき俳句会

みんなの声

■まちに出没するキツネの対策は

最近毎日のように十勝太周辺でキツネの姿を見ます。人間が声を出して追っても平気で人馴れしているようです。今のところ悪さもされていませんが、エキノコックスを考えたとき、このままで見ても良いものか疑問を持ちます。

エキノコックス対策としましては、狐の検体検査による「汚染状況の把握」をはじめ、井戸水など飲まないようにとの「啓発活動」を行っております。今のところ問題となるようなことは起こっておりません。

キツネなどの野生鳥獣が農林水産業などに被害を与えたり、被害を与えるおそれがあり、なおかつ捕獲以外の被防除対策を実施しても被害を効果的に防止できないと思われる場合に、「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」に基づいて有害鳥獣として駆除いたしますので、ご相談ください。

(町民課生活環境係・産業課林務係)

川柳 上浦幌句の会

自由吟  
ほろ苦い山菜パワー元気の元  
髪切つて衣替えしてペダル踏み  
さよならの桜吹雪に感無量  
快気への一途な思い妻の愛  
過ぎし日の幾多の苦難懐かしむ

山田エツ子  
福田すま子  
芳川 乙美  
広瀬マサヨ  
朝日ヒロエ

銀河線廃止の線路見つめつつ  
朝食の香る味噌汁エネルギー  
子と孫に祝ってもらう喜寿の膳  
郭公も忘れず来たり枝が鳴く  
七夜月ピンクの絨毯馬鈴薯の花

笹島カヨ子  
経堂 ハナ  
河村みよ子  
山田 ナツ  
大西 功

短歌 浦幌短歌会

雨の中をカツパ姿で歩いてるは青春の夢か路傍でおくる  
雨ばかりふる六月は晴れの日を待ちて草抜く草に追われて  
逆流もあるべし夕べアイリスの頂きの花絞られて立つ  
詩集には料理や家庭も記しある茨木のり子に親しむも遙か  
同窓会皆それぞれに語り合う生きたあかしを美しくして  
ダビントの微笑の真実モナリザの真実ほほえみ母なりとやら  
黄昏で生きるさびしさ知る鳩が青葉の杜でほろほると啼く  
インタホン緊急以外押さないと休息前にメモ紙貼りぬ  
霧こめる空から海へ太平洋波打ちぎわをかすかに見せて

米司 好美  
山崎 阿己  
山口 恵子  
柴田 弘子  
星 愛子  
福澤 米子  
高橋 悦子  
長谷川アキ  
後藤 年子

みんなの  
ニギハヤク

編集後記

■表紙の写真は、ふるさとの夏まつりでの浦中吹奏楽部演奏会です。それぞれのスタンディングプレイが格好良かったです。(井)

■掲載された写真は、差し上げますので(本人または家族)お気軽にご連絡下さい。

人のうごき

平成 18 年 7 月 31 日現在

- 人口 / 6,231 人(+ 9 人)  
男 / 3,009 人(± 0 人)  
女 / 3,222 人(+ 9 人)
- 世帯数 / 2,513 戸(+ 1)
- 出生 5 人 ○転入 18 人
- 死亡 2 人 ○転出 12 人
- 1 年前の人口 6,414 人  
( )内は前月比

交通事故発生状況

平成 18 年 7 月 31 日現在

- 発生 10 件(前年比+ 4 件)
- 死者 1 人(前年比- 1 件)
- 傷者 16 人(前年比+ 10 件)
- 事故死者ゼロ日数 7 日

消費生活相談

平成 18 年 9 月

浦幌消費者協会では悪質商法など、消費生活にかかわることについての相談を実施しています。

- 5 日(火)・19 日(火)
- 10 時~ 12 時、13 時~ 15 時
- 浦幌中央公民館
- 1 階小会議室(内 750)

日曜救急当番医院

平成 18 年 9 月

- 診療時間は 10 時から 16 時までです。急患に限ります。
- 3 日、17 日  
多田医院
- 10 日、24 日  
町立診療所
- ※都合により当番医は変更になる場合があります。

厚生労働省の 2003 年度の調査によると、男性の第 3 号被保険者(つまり専業主婦ならぬ専業主夫)の数が 8 万人を突破したそうです。女性の社会進出に伴い、第 3 号被保険者の全体数は減り続けているというのに、男性のそれは増え続け、1996 年からたった 7 年間で、なんと 2 倍になったとか!

第 3 号被保険者の総数は 1109 万人ですから、全体としてはほんの少しですが、それでも、育児や一時的な失業ではなくて、本腰入れて専業主夫をしている男性が、そんなにいるなんて驚きです。

1980 年代に、「男も女も育児時間を! 連絡会」(いくじれん)という団体が、平均的サラリーマン家庭の一日の労働時間は 8 時間だから、これを妻と夫で 4 時間ずつ働き、残りは男女とも育児時間に! と主張しました。が、当時は、この主張さえ

注目はされても、現実にはほとんど浸透せず、彼らの実践した男の育児は、奇異な目で見られたものです。それが今、育児は国を挙げて奨励され、専業主夫さえ増殖中とは! 時代は変わるものですね…。30 年前は田村正和が専業主夫の役をやるなんて、誰も想像も出来なかったことでしょう(誰よりもママを愛す)HBC 系・日曜夜 9 時。

しかしこのスタイル、祖父母世代には受け入れられないようで、両方の親からの「男が家事育児をやるなんて!」「男が働かないで女に食べさせてもらうなんて!」という非難が、どの専業主夫家庭にも影を落としてくるようです。

子育てコラム

時代とともに家族の形態が変わるのは自然な流れ。30 年前は田村正和が専業主夫の役をやるなんて誰も想像出来なかったことでしょう。

男だって子育て!?  
その⑤ 専業主夫が増えている!?

1988 年立教大学卒。雑誌記者を経て結婚。3 人の子どもを育てながら子育て支援を独学。カナダ・ライオンズ大学レイモンド・チャン・スクール家庭支援職資格認定課程を通信教育で修了。2003 年より日本で最初 & 唯一のファミリーライフエデュケーターとして活動中。

■ホームページ <http://homepage3.nifty.com/mami-file/index.htm>

columnist

林 真未 (はやし・まみ)



家事も育児も、外で働くのと同様いや命をばくくむという点では、もしかしたらそれ以上に尊い仕事のはずなのに、どうして男性がこれを司ってはいけないのでしょうか? 旧世代にとっては、男が働き女が家を守る、そんな慣れ親しんでいた価値観が根本から覆されるのは、心地よくないことなのかもしれません。

しかし、もっと長い目で歴史を見れば、専業主婦だって実は新しい存在。主婦は、大正期、一部の裕福層に始まり、昭和の初期に一般化していったといわれています。そう考えると、時代とともに家族の形が変わるのは、自然な流れといえるのです。

二十一世紀のキーワードはダイバーシティ(多様性)。家族の世界も、専業主夫や夫婦 4 時間ずつの労働など、様々な形があるほうが、世の中もっと楽しくなるのでは? と個人的には思っています。